

1年生 美術科の学習内容

1 美術科の学習のねらい

- ・授業を通して、美術を愛好する気持ちを培い、心豊かな生活を創る気持ちや考えを養う。
- ・感じたことや考えたことをもとに、表現する技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる
- ・美術文化に対する関心を高め、よさや美しさを味わう能力を養う。

2 評価の方法

- (1) 美術への関心・意欲・態度
授業の準備・かたづけ 学習に対する態度・集中力
忘れ物・提出物の状況など
- (2) 発想・構想の能力
アイデアスケッチ、下絵など工夫したこと
- (3) 創造的な技能
材料・用具の扱い方 技法を生かした表現方法の工夫など
- (4) 鑑賞の能力
ワークシート・自己評価表の記入内容 発表内容など

※美術科は定期テストを実施しませんので、上記の観点で評価いたします。授業への取り組みが評価の重要なポイントになります。

3 学習内容

	領域	題材名	題材のねらいと学	評価の観点（規準）
1 学 期 12 時 間	鑑賞	「図画工作から美術へ」 観察して色や形を描く。	小学校での図画工作の学習を振り返り中学校の美術の学習との関連性を考えながら、美術の学習活動に意欲的に取り組めるようにする。	○図画工作の学習を振り返り、美術の学習に関心を持っている。 ○掲載作品を鑑賞し、それぞれのよさを味わい、作者の意図を考えている。
	絵画 デザイン	「色彩の世界にふれる」	色の性質を理解する。 描画材料の混色やグラデーションを行う	○色の要素や性質に関心を持ち、色の配色や組み合わせの構想を練っている ○材料の特長を理解し混色を工夫して彩色している。 ○作品に用いられた技法やその効果に注目して鑑賞している。
	絵画 (一般多色刷版画)	「人間野カラフル動物園をつくろう」 混色や重色を工夫して版画を刷ろう	生き物を観察し、形や色のおもしろさや美しさを発見する。配色を考えて、混色や重色を工夫して、一般多色刷の表現方法を身につける。	○生き物を観察し興味・関心をもって主体的に取り組んでいる。 ○構図や配色を工夫し感動を表す表現を構想している。 ○色彩の効果を考えて版画の刷りを工夫し生き生きと表現している。 ○作品のよさや美しさを味わい、表現意図について理解して制作している。

2 学 期 15時間	鑑賞	「樹花鳥獸図屏風」の鑑賞 伊藤若冲の作品の面白さをつかもう	描かれている内容や構図などを比較しながら意味を考えることにより、より深い鑑賞活動を行い、鑑賞の楽しさやおもしろさを味わう。	○作品の中に効果的に使われている表現方法を理解している。 ○共通点や違いなどを考えて作品のよさや美しさを鑑賞している。
	彫刻	「不思議生き物図鑑」材料の特徴を生かして生き生きとした立体に表す	生き物の特徴をとらえ、自然材料や廃材を生かして彫刻することにより、表現の面白さ、楽しさを味わう。	○彫刻に表現するよさや楽しさ、美しさに関心を持ち、生き物の姿を観察することから発想し、生命観ある表現を構想している ○構想にあった材料や表現方法を選んで、制作している。
3 学 期 18時間	鑑賞	「隣の国々アジア」 見る、知る、交流する	アジアの文化遺産や各国の生徒作品を鑑賞し、アジアの美術文化や歴史などに興味・関心を持ち、理解を深め、国際理解における美術の役割を考える。	○アジアの美術や文化に関心を持ち、国際理解を深めている。 ○特徴や共通点などを考えてよさや美しさを鑑賞している。
	デザイン	「文字のデザイン」リタリングの技法をつかもう	生活の中で使われているリタリングの技法をつかみ、文字のデザインに生かす	○レタリングの技法に関心を持ち、デザインの手順を理解できる。 ○様々な文字の字体を理解し、発想・構想につなげている。 ○文字のデザインを形や色を生かし創意工夫して表現している。 ○特徴や共通点などを考えてよさや美しさを鑑賞している。
		「狭山茶オリジナルボトル」を作ろう	狭山茶のオリジナルボトルのデザインすることの意味や効果について考えるとともに、見る人が楽しくなるように伝えることを学習する。	○オリジナルボトルの形や色のデザインについて、興味・関心を持っている。 ○身近なものの観察から発想し、効果的なデザインを構想している。 ○形や色のデザインについて理解しそれらを工夫して表現している。 ○生活の中で、デザインがどのように生かされているのかを考えて鑑賞している。
	絵画	「リアルに描いてみよう」	自分の手を道具を使い観察し、新鮮な目で形を理解し発見する。面でとらえることをしり次年度の製作に生かせるように基本的なものの形や描き方、描画材料の表現方法を身につける。	○自分の手を観察し興味・関心をもって主体的に取り組む。 ○主題を決め、遠近感などをとらえ、感動を表す表現を構想する。 ○色彩の効果を工夫し、用具や材料を適切に使い、生き生きと表現する。 ○お互いの作品のよさや美しさを味わい、表現意図について理解して制作する。